

2020年9月16日

教職員 各位

「城西現代政策研究」編集委員会・研究推進委員会
委員長 倉成正和

城西現代政策研究会（ご案内）

拝啓

初秋の候、現代政策学部の教職員の皆様には、ますます教育研究に励んでおられることと存じます。「城西現代政策研究」編集委員会・研究推進委員会では、現代政策学部の教員等のさらなる研究を奨励し、紀要「城西現代政策研究」への投稿等をより活性化することを今後も目指してまいります。

第5回研究会の開催を、以下の通り、決定しましたので、ご案内いたします。ぜひお時間を作って、積極的に参加していただけると幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

敬具

記

日時： 2020年9月25日（金）16:00～17:30
発表者： 淵田 仁 先生
テーマ： 「18世紀フランスにおけるポスト・トゥルース問題」
司会者： 飯塚 智規 先生
会場： Zoom 会議(URLは別途ご連絡いたします)

==発表要旨==

数年前から、「ポスト・トゥルース Post-truth」という言葉が世界中で話題となっている。この言葉が象徴するように、〈事実とは作られたものだ〉〈事実の正しさよりも感情に訴えることが重要だ〉といった考えが日常生活から政治空間に至るまで行き渡っている。このような知的態度が話題になるためには、〈事実〉に対して私たちが持つ信頼が先行して存在しなければならないだろう。すなわち、〈確かな知とは事実に基づいていなければならない〉という漠とした信念が私たちの世界で共有されているがゆえに、「ポスト・トゥルース」現象が生じているのである。

だが、こうした事態は歴史的に繰り返されてきたのではないか。とりわけ本報告で取り扱う啓蒙の世紀は、このポスト・トゥルース的問題にまさに正面からぶつかった時代と言えるのではないか。以上の問題関心に基づいて、『百科全書』派と護教論者たちの「事実」を巡る言説を検討し、その論争空間を再構成することが本報告の目的となる。

第5回城西現代政策研究会担当：大藪 陽子
連絡先：現代政策学部事務室 049-271-8077